

ぴーびる

日本上下水道設計株式会社
技術本部
アセットマネジメント部

やま した みつ お
山下三男氏



—これまでの経歴は

昭和63年に防衛大を卒業後、航空自衛隊の戦闘機操縦士としての勤務を経て、都市計画コンサルタントで設計技師として勤務したのち、福岡大学大学院の市川新教授の下で「分布型モデルへの適用を目的とした森林流域の降雨流出過程のモデル化」をテーマに4年半の研究生活を送りました。平成18年9月に博士（工学）の学位をいただき、10月に日本上下水道設計株式会社に入社いたしました。ほやほやの新入社員です。

—現在の担当業務は

現在、技術本部アセットマネジメント部で流出解析を担当しております。下水道水理に関してはいささか門外漢ではありますが、先輩方のご指導の下、日々精進を重ねております。下水道や土木という枠組みを超えた人的ネットワークの中から新たな業務、特に20代、30代の若い人たちが目を輝かせながら取り組めるような仕事を創造していければと考えております。

—本機構と行った仕事、本機構の事業活動についてのご意見をお聞かせください

現在、「都市浸水氾濫解析に関する評価検討業務」における水理模型実験と結果の解析でお世話になっております。学生時代は実験をほとんど経験する機会がありませんでしたので、貴重な経験をさせていただいております。おかげさまで水理公式集を昭和46年版、60年版及び平成11年版の管路の水理に関する箇所を精読させていただきました。水理公式集から実務的な記述が徐々に失われていっているような気がするのは私だけでしょうか。先人の貴重な知見とその経緯について、若い世代がもっと接しやすくなればと感じます。

パソコンの高性能化に対応して、流出解析の分

野においてもシミュレーションの技術が急速に進歩してまいりましたが、地味で地道な観測や実験の積み重ねがあつてこそシミュレーションの技術が活きると考えております。しかしながら、昨今は地道な観測や実験が十分に評価されない時代であり、大学の研究者は観測や実験のための研究費を確保するのが難しい状態ですし、コンサルタントにおいても大規模な実験施設を継続的に維持するのが困難となってきております。下水道新技術推進機構におかれましては、新技術を開発し支えていくためにも、この辺の事情にご配慮いただければと個人的に思っております。

—これまでで思い出に残る仕事は

まだ思い出を語るほど仕事をしておりません。

しかしながら、当社の地方事務所の人たちと話をしてみても、自治体の要望に地域性が強く出てきているように思います。「中央で新しい技術を開発し、それを地方に供給する」という枠組みは、南北に細長いわが国にあつてはそろそろ考え直す時期に来ているのかも知れないと考えることがあります。地域発の技術をサポートし、それを応用して別の地域に適用するという仕組みも必要なのかなと感じます。

—今後の抱負をお聞かせください

様々な分野の新しい情報をキャッチできるアンテナと実務の現場のニーズをキャッチするアンテナの両方を磨いていきたいと考えております。将来的にそれらを現場で活かしてもらえるように橋渡しをしながら、新たな提案を行ってまいりたいと存じます。